F-4

日本語の左方転位構文の「形式」と「意味」再考

大江元貴（金沢大学）・居關友里子（国立国語研究所）・鈴木彩香（国立国語研究所）

要旨：日本語の左方転位構文は従来、その形式としては文左端に無助詞成分が生じること、意味としては情報構造的機能が重視され、その特徴に合致する文は広く左方転位構文、あるいは左方転位構文と同種の構文と位置づけられてきた。しかし、発表者が見るところによると、その内部にはかなり異質なものも含まれており、日本語の左方転位構文の特徴と外延を定めることが難しくなっていた。本発表では、この構文の「形式」的側面として pause のあり方、「意味」的側面として談話ジャンルの特性を記述にとりこむことで、これまで左方転位構文（と同種の構文）として括られていた構文群内の共通点と相違点が明確に捉えられるようになり、日本語の左方転位構文は、〈形式：[無助詞成分 $_i$] ＋［韻律的切れ目（pause)］＋［(代名詞 $_i$）…。]〉〈意味：モノローグにおける境界表示〉という形式と意味のペアとしてシンプルに記述できるようになるということを示す。

1. 本発表の分析対象と論点

日本語の左方転位構文には 2 つのタイプが認められている。1 つは(1)のように無助詞成分が文左端に現れ、その無助詞成分を先行詞とする代名詞的要素が後続節に現れるタイプ、もう 1 つは(2)のように代名詞が後続節に現れないタイプである（山泉 2013; 竹内 2016)。

(1)　高杉晋作 $_i$、{この男 $_i$／彼 $_i$} は幕末の革命児である。　【左方転位構文（代名詞あり)】

(2)　高杉晋作、幕末の革命児である。　【左方転位構文（代名詞なし)】

代名詞が現れない(2)との関係で問題になるのは(3)のような例の扱いである。(3)は代名詞を顕現させると不自然になる点は(2)と異なるが、多くの先行研究（山泉 2013; 竹内 2016; 松浦 2020; 益岡 2021）が(3)を(2)と同じ左方転位構文、あるいは左方転位構文と同種の構文と位置づけている。

(3)　高杉晋作、昨日のドラマに出てきたよ。　【左方転位構文？】

cf. ?高杉晋作、{この男／彼} は昨日のドラマに出てきたよ。

本発表は、構文の形式として韻律まで目を向け、意味として出現する談話ジャンルまで含めて再検討すると、(1)(2)と(3)の間に明確な違いが見出されることから、(3)は(1)(2)と異なるタイプの構文と考えるべきであると考える。構文の記述に韻律や談話ジャンルをとりこむことは記述の複雑化につながるように見えるが、むしろこれらの観点を導入して(3)を切り離すことで、左方転位構文という構文の特徴を非常にシンプルに捉えられるようになるということを示す。

2. 先行研究と問題提起

2.1　先行研究

■ 日本語の左方転位構文の形式

日本語の左方転位構文が(4)のように規定できることは多くの先行研究で一致を見ており、構文の形式面としては、その統語構造が重視されてきた。ただし、pro-drop 言語である日本語においては、代名詞がゼロになることも可能であることが指摘されている（山泉 2013; 竹内 2016; 松浦 2020)。

(4)　［無助詞成分 $_i$］＋［（代名詞 $_i$）…。］

左方転位構文の音声的特徴としては、通言語的に左方転位要素は韻律的な卓立が見られ、「典型的」には pause が後に続くことが指摘されているが、構文を構成する必須要素とは見なされておらず（Lambrecht 2001)、日本語の左方転位構文においても pause に関する詳細な分析は見られない。

■ 日本語の左方転位構文の意味（機能）

左方転位構文は通言語的に、「新たな主題の導入（先行談話の主題とは異なる主題を表示、導入する）」という情報構造的役割を担うものであるとされており（Lambrecht 2001; Rodman 1974）、日本語の左方転位構文に関しても主に情報構造に着目した分析がなされてきた（山泉 2013; 松浦 2020）。ただし、山泉（2013)が指摘するように、日本語の左方転位構文は、(1)(2)のような主題を導入する例だけではなく、(5)のような焦点を設定することも可能であり、これをうけて山泉（2013）は左方転位構文の機能を(6)のように捉えている。

(5) A：　誰が一郎の母ですか？
　　B：　山田花子、彼女が一郎の母です。（山泉 2013:47）

(6) 日本語の左方転位構文の機能は、主題のみならず「何らかの情報構造的役割（主題や焦点）をアナウンスすることである（山泉 2013: 441）」

■ 左方転位構文と無助詞主題文との関係

山泉（2013)は、(2)のように代名詞が顕在的に現れていない場合であっても代名詞を挿入できるものは左方転位構文と見なしており、(7)のような主題文との重要な違いと見ている。

(7) a.　太郎は、大学院生だ。　（山泉 2013: 435）　【「は」主題文】
　　b. ?太郎は、彼が大学院生だ。　（山泉 2013: 435）

一方で、(8)のようにも述べ、（先に挙げた(3)と同じタイプの）(9)のような無助詞主題文も左方転位構文の一種と位置づけている。しかし、(9)は代名詞の挿入が難しく（松浦 2020）、何を左方転位構文とみなすかの基準が定まっていないように見える。

(8)　「主題的機能のある無助詞名詞句は、pronominal がゼロになった左方転位要素である（山泉 2013:450）」

(9) a.（話者の家の玄関から靴を履いて帰ろうとしている人へ）くつべら使う？
　　b.（家族に）郵便屋さんもう来た？　（山泉 2013:449）　【無助詞主題文】

(10) a. ?くつべら｛それを／それは｝使う？
　　b. ?郵便屋さん｛彼が／彼は｝もう来た？（松浦 2020: 113）

代名詞の挿入可能性の違いを脇に置けば、確かに(9)のような無助詞主題文は(4)の統語構造に収まり、また(6)の情報構造的機能の共通性も捉えやすくなる。実際、竹内（2016)、松浦（2020)、益岡（2021）などの研究においても無助詞主題文を左方転位構文と同種の構文と位置づけている。

2.2　問題提起

①②に加えて③のような無助詞主題文までを含めて左方転位構文と見た場合、左方転位構文は概略(11)のように記述できることになる。この記述によって捉えられる共通性があることも認めた上で、本発表では(11)の記述では取りこぼされる内部の異質性に目を向けてみたい。

(11) 形式：［無助詞成分 $_i$］＋［（代名詞 $_i$）…。］
　　意味：何らかの情報構造的役割（主題あるいは焦点）の表示

	代名詞
①　高杉晋作、この男は幕末の革命児である。（＝(1)）	あり
②　高杉晋作、幕末の革命児である。（＝(2)）	なし・挿入可
③　高杉晋作、昨日のドラマに出てきたよ。（＝(3)）	なし・挿入不可

違いとしてまず気づくのは、③が話し言葉らしい表現であるのに対し、①②はあまり話し言葉らしくないという違いである。この違いは一見①②の文末が「である」体をとっていることに由来するように見えるが、そもそも①を「高杉晋作この男は幕末の革命児だよ」「高杉晋作この男は幕末の革命児なんだって」のような会話を想起させる文末表現にすること自体が難しく、「話し言葉らしくない」というのはこの構文の特徴であることが窺える[1]。

また、①②と③の違いは、無助詞成分の後の pause の有無の影響からも指摘できる。発表者の内省では③は pause があってもなくても自然だが、①②は pause がないと不自然に感じられる。

(12)　高杉晋作[pause／? no pause]この男は幕末の革命児である。　【①】

(13)　高杉晋作[pause／? no pause]幕末の革命児である。　【②】

(14)　高杉晋作[pause／no pause]昨日のドラマに出てきたよ。　【③】

構文を形式(form)と意味(meaning)のペアとして捉え、その結びつきにおいて慣習化されたあらゆる側面を認める構文研究の枠組みでは、構文の形式には形態・統語的なものだけではなくイントネーションなどの韻律的な特性も含まれ、また構文の意味にはその構文が発される談話の特性や語用論的な特性も含まれる（Goldberg 1995; Croft and Cruse 2004）。本発表はこのような構文観に立ち、形式的側面として pause のあり方、意味的側面として出現する談話ジャンルを新たに観点として導入し、日本語の左方転位構文の形式と意味を再考することで、①～③の共通点と相違点が明確に捉えられるようになることを示す。

結論を先取りした表現になるが、以下では①②のタイプをそれぞれ「左方転位構文(代名詞あり)」「左方転位構文（代名詞なし）」と呼び、③のタイプを「無助詞主題文」と呼ぶ。

3. 分析 1：左方転位構文の「形式」再考

3.1　調査の手続き

pause の有無が各タイプの文にどのように影響するかを検討するにあたり、①6 文、②6 文、③3 文のそれぞれの文について無助詞成分の後に「pause あり（p）」と「pause なし（n.p）」の読み上げ音声を作成し、それぞれの読み上げ音声に対する自然さを評価してもらう調査を行った。

表 1 調査対象と調査概要

	例文の例
①　左方転位構文（代名詞あり）	高杉晋作[p／n.p]この男は幕末の革命児である。
②　左方転位構文（代名詞なし）	高杉晋作[p／n.p]幕末の革命児である。
③　無助詞主題文	高杉晋作[p／n.p]昨日のドラマに出てきたよ。

調査時期：2021 年 11 月～12 月
協力者：北陸地方の大学に所属する学生 60 名
回答方法：読み上げられる文が書かれた回答用紙を手元に置き、依頼者が再生する音声を協力者たちは一斉に聴取、その自然さを 1（非常に不自然）から 4（非常に自然）の 4 段階で評価し記入。各読み上げ音声の再生は 1 回ずつ、回答時間 3 秒程度をあけ、同じ文の「pause あり」と「pause なし」を連続して流す。

[1] 左方転位構文と呼ばれる構文が出現する談話ジャンルの違いを検討したものとしては竹内（2016)がある。竹内は、代名詞が顕在的に現れる左方転位構文は漢文訓読文を起源とする書き言葉の構文であるのに対し、代名詞がゼロ形の左方転位構文は話し言葉の構文であるという一般化をしている。しかし、この一般化では②は「話し言葉」の構文ということになってしまう。竹内（2016)では①と③の対立が前提となっており、②の存在が想定されていないのだと考えられる。

読み上げは関東方言地域で育った第２、第３発表者が行った。「pause あり」の pause 長については、あえて統制をせず、読み上げ話者が pause を十分に置くように意識して発話したものをそのまま使用した（「pause あり」：Avg: 0.40sec、Min: 0.272sec、Max: 0.544sec 「pause なし」：全て 0.1sec 以下）。なお、①②③に加え、フィラー文として「④ 助詞つきのデフォルト文（e.g. 「高杉晋作は幕末の革命児である」)」と「⑤ 主題解釈を受けない無助詞文（e.g. 「高杉晋作扱ったドラマ知ってる？」）についての調査も行っているが、本発表では取り上げない。

３.２　調査結果と考察

調査結果を①②③のタイプごとにまとめたものが以下の表２から表４である。

表２　①左方転位構文（代名詞あり）における pause の有無の違い

				回答内訳			
		Avg	SD	4	3	2	1
(15)	a. 高杉晋作[p]この男は幕末の革命児である。	3.80	0.48	25	4	1	0
	b. 高杉晋作[n.p]この男は幕末の革命児である。	1.90	0.79	1	5	14	10
(16)	a. データの捏造[p]それは研究者が最もやってはいけないことだ。	3.80	0.40	24	6	0	0
	b. データの捏造[n.p]それは研究者が最もやってはいけないことだ。	2.77	0.88	6	14	7	3
(17)	a. 怒りっぽい性格[p]それがあいつの唯一の欠点だ。	3.77	0.50	24	5	1	0
	b. 怒りっぽい性格[n.p]それがあいつの唯一の欠点だ。	2.23	0.72	1	9	16	4
(18)	a. さっきの子供[p]あいつがイタズラをやったに違いない。	3.87	0.34	26	4	0	0
	b. さっきの子供[n.p]あいつがイタズラをやったに違いない。	1.40	0.61	0	2	8	20
(19)	a. コーヒーの真の魅力[p]今後もこれを広めていきたいです。	3.77	0.42	23	7	0	0
	b. コーヒーの真の魅力[n.p]今後もこれを広めていきたいです。	1.90	0.83	1	6	12	11
(20)	a. 佐藤一郎[p]私は彼を絶対に許さない。	3.97	0.18	29	1	0	0
	b. 佐藤一郎[n.p]私は彼を絶対に許さない。	1.83	0.73	1	3	16	10

表３　②左方転位構文（代名詞なし）における pause の有無の違い

				回答内訳			
		Avg	SD	4	3	2	1
(21)	a. 高杉晋作[p]幕末の革命児である。	3.97	0.18	29	1	0	0
	b. 高杉晋作[n.p]幕末の革命児である。	1.67	0.70	1	1	15	13
(22)	a. データの捏造[p]研究者が最もやってはいけないことだ。	4.00	0.00	30	0	0	0
	b. データの捏造[n.p]研究者が最もやってはいけないことだ。	1.40	0.49	0	0	12	18
(23)	a. 怒りっぽい性格[p]あいつの唯一の欠点だ。	3.73	0.51	23	6	1	0
	b. 怒りっぽい性格[n.p]あいつの唯一の欠点だ。	2.07	0.81	2	5	16	7
(24)	a. さっきの子供[p]イタズラをやったに違いない。	3.87	0.43	27	2	1	0
	b. さっきの子供[n.p]イタズラをやったに違いない。	2.30	0.74	1	11	14	4
(25)	a. コーヒーの真の魅力[p]今後も広めていきたいです。	3.60	0.71	22	4	4	0
	b. コーヒーの真の魅力[n.p]今後も広めていきたいです。	2.40	0.95	3	13	7	7
(26)	a. 佐藤一郎[p]私は絶対に許さない。	3.70	0.53	22	7	1	0
	b. 佐藤一郎[n.p]私は絶対に許さない。	2.40	0.80	3	9	15	3

表 4　③無助詞主題文における pause の有無の違い

				回答内訳			
		Avg	SD	4	3	2	1
(27)	a. 高杉晋作[p]昨日のドラマに出てきたよ。	3.80	0.51	50	9	0	1
	b. 高杉晋作[n.p]昨日のドラマに出てきたよ。	3.67	0.54	42	16	2	0
(28)	a. 怒りっぽい性格[p]それ絶対直した方がいいよ。	3.52	0.70	37	18	4	1
	b. 怒りっぽい性格[n.p]それ絶対直した方がいいよ。	2.88	0.93	17	25	12	6
(29)	a. コーヒーの真の魅力[p]教えてあげるよ。	3.75	0.50	47	11	2	0
	b. コーヒーの真の魅力[n.p]教えてあげるよ。	3.50	0.65	35	20	5	0

表 2 に示した①左方転位構文（代名詞あり）の結果を見てみると、いずれの文も無助詞成分の後に pause が置かれる(a)の自然さの平均値が 3.77～4.00 と高い値を示すのに対し、ポーズを置かずに読み上げた(b)は 1.40～2.77 にとどまる。同様の傾向が表 3 の②左方転位構文（代名詞なし）からも読み取れ、(a)は平均 3.60～3.97 と高い水準にあるのに対し、(b)は 1.40～2.40 にとどまる。このように①左方転位構文（代名詞あり）と②代名詞左方転位文（代名詞なし）の自然さに pause が与える影響は類似しており、表面上の形式が異なっている両文を同じ左方転位文と見なすことの妥当性を示唆する。

これに対し、表 3 の③無助詞主題文の pause の有無による違いを見ると、両者の自然さの差は①②ほどは開きがないことがわかる。そのため pause の有無がこの文の自然さに影響を与えているとまでは言えず、③が実現形において類似している②とは異なるタイプのものであることが窺える。

なお、①②の「pause なし」の平均値をとると、①で 2.00、②で 2.04 となるが、この値を解釈するために別途行ったアンケート調査の一部を紹介する。

追加調査の概要

調査時期：2022 年 6 月
協力者：北陸地方の大学に所属する学生 68 名（先の調査とは異なる協力者）
回答方法：(30)(31)(32)を含む 12 ペア、計 24 文が書かれた回答用紙を各自黙読し、各文の自然さを 1（非常に不自然）から 4（非常に自然）の 4 段階で評価し記入。

(30) a.　このオペラはプッチーニによって作曲されたものだ。（Avg: 3.91）
　　 b.　このオペラはプッチーニに作曲されたものだ。（Avg: 2.49）
(31) a.　前を歩く人に）あ、切符が落ちましたよ！（Avg: 3.87）
　　 b.　（前を歩く人に）あ、切符が落ちました！（Avg: 2.53）
(32) a.昨日田中にあったんだけど、あいつ、相変わらず元気だったよ。（Avg: 3.93）
　　 b.　昨日田中にあったんだけど、そいつ、相変わらず元気だったよ。（Avg: 2.03）

(30)は、生産物が生じる動詞を用いた受動文はニヨッテ受動文でなければならないこと、(31)は「よ」などの終助詞がないと聞き手の注意をひく文にならないこと、(32)は話し手と聞き手が共に知っている対象はア系で指しソ系は使いにくいということを示す、よく知られた日本語の文法現象（庵ほか 2000; 日本語記述文法研究会編 2003）であり、(30)b、(31)b、(32)b は、「不自然な文」と位置づけられてきた文である。①②の「pause なし」が示す値は、通常不自然な文として扱われるこれらの文が示す値より低いあるいは同等の値をとっていることから、本発表では①②の「pause なし」は不自然と判断されたと解釈する。

以上から、③無助詞主題文の自然さには pause の有無が関わらないが、①②の左方転位構文の無助詞成分の後には pause がないと不自然になる、つまり、③無助詞主題文にとっての pause は談話の要請に応じて生じたり生じなかったりするものであるが、①②左方転位構文にとっての pause はそのような任意の要素ではなく、構文を構成する要素の 1 つとして位置づけられるべきものであると考える。

表 5　左方転位構文と無助詞主題文の形式

	代名詞	無助詞の後の pause
① 左方転位構文(代名詞あり)	あり	ないと不自然
② 左方転位構文(代名詞なし)	なし・挿入可	ないと不自然
③ 無助詞主題文	なし・挿入不可	任意

4. 分析 2：左方転位構文の「意味」再考

大江ほか(2020)では、①左方転位構文（代名詞あり）が出現する環境について検討し、「講演」「報告・説明」「ナレーション」などの話し手（書き手）が聞き手（読み手）に語りかけながら一方的に言語産出を続けるモノローグに現れるのが原則であり[2]、話者が頻繁に交替する対話には基本的には現れないこと、そのようなモノローグにおいて左方転位構文は話題の導入や総括、並列する項目の提示など、何らかの意味での談話の境界を表示する機能があることを明らかにしている。大江ほか(2020)は①左方転位構文（代名詞あり）のみを対象としているが、②左方転位構文（代名詞なし）が出現する談話も(33)のようなモノローグが想起され、逆に(34)のような典型的な対話の応答の位置には現れにくいことから、①②は出現する談話ジャンルの特徴を共有していると考えられる。

（33）a.　二十一世紀に残したいものそれは自然と平和ですえー最近あのーこ私が子供の頃に比べるとトンボの数が無性に少なくなったような気がします

（大江ほか 2020:227／『日本語話し言葉コーパス』S11M0483_150）

b.　えーとねー，4 番目のねー，諸行事のー，えー，防災体験研修会，これは何人か，ま，今まで行ってもらってると思いますがー，今回はあのー，ばんぎの佐藤さんにー，行ってもらいます.

（大江ほか 2020:233／『現日研・職場談話コーパス』M09A011_24700）

（34）A：　あなたが二十一世紀に残したいものってなんですか？

B：??（私が）二十一世紀に残したいものそれは自然と平和ですね。

これに対して、③無助詞主題文は、むしろ(35)a のような対話、あるいは(35)b のような他者に聞かせることを前提としていない独話（独り言）がその典型的な出現環境として想起される。

（35）a.　（家族に）郵便屋さんもう来た？（=(9)b）

b.　（待ち合わせ相手の田中さんを遠くに見つけて）あ田中さんいた！

③無助詞主題文が出現する談話ジャンルやその意味についてはより詳細な分析が必要になるが、ここではひとまず主に対話や独話で用いられる現場性の強い主題文と考えておく（丹羽 2006、金田 2006）。本発表で確認しておきたいのは、出現する談話ジャンルという観点から見ても①②が同じ特性を示し、③はそれとは異なる特性を持つということである。

[2] 実際には日本語の左方転位構文はモノローグでも聞き手の存在を意識しつつ語りかける態度が伴うような場合でないと使用しにくく、大江ほか(2020)ではその特徴を捉えて、左方転位構文が現れる談話ジャンルを（モノローグの下位類としての）「独演調談話」と呼んでいる。

表 6　左方転位構文と無助詞主題文の形式と意味

	「形式」		「意味」
	代名詞	無助詞の後の pause	
① 左方転位構文(代名詞あり)	あり	ないと不自然	モノローグにおける境界表示
② 左方転位構文(代名詞なし)	なし・挿入可	ないと不自然	モノローグにおける境界表示
③ 無助詞主題文	なし・挿入不可	任意	対話・独話における主題提示

5. 結論

③の無助詞主題文を左方転位構文から切り離すことで、日本語の左方転位構文は(36)のような形式と意味のペアとしてシンプルに記述することができるようになる。

（36）日本語の左方転位構文

形式：［無助詞成分 $_i$］＋［韻律的切れ目（pause)］＋［(代名詞 $_i$）...。］

意味：モノローグにおける境界表示

(11)のような抽象度の高い記述で③も含めた構文群の共通性を捉えておいた上で、本発表で議論した言語事実を補足的に書き込むということも可能だが、そうすると「典型的には無助詞成分の後には pause が入る」「代名詞を挿入できるタイプとできないタイプがある」「専らモノローグに現れるタイプと主に対話・独話に現れるタイプがある」といった補記を列挙することになり、かえって記述が複雑化してしまう。構文の形式と意味として書き込む情報を豊かにすることで、左方転位構文という構文の特徴、および類似した文との違いがより明確になるのである。

参照文献

■ 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000)『初球を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク／■ 大江元貴・居關友里子・鈴木彩香（2020)「日本語の左方転位構文はいつ，どのように使われるか？」『社会言語科学』23(1): 226–241.／■ 金田純平（2006)「無助詞題目の認知的特徴—心内処理と現場性—」中川正之・定延利之（編)『言語に現れる「世間」と「世界』47–78. くろしお出版／■ 竹内史郎（2016)「現代日本語における左方転位構文のタイプと起源」青木博史・小柳智一・高山善行（編)『日本語文法史研究 3』189–212. ひつじ書房／■ 日本語記述文法研究会（編)(2003)『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』くろしお出版／■ 丹羽哲也（2006)『日本語の題目文』和泉書院／■ 益岡隆志（2021)「日本語主題構文と主観性」天野みどり・早瀬尚子（編)『構文と主観性』185–202. くろしお出版／■ 松浦幸祐（2020)「無助詞構文の構文文法的考察」『日本語・日本文化研究』30: 106–210.／■ 山泉実（2013)「左方転位構文と名詞句の文中での意味的・情報構造的機能」西山佑司（編)『名詞句の世界　その意味と解釈の神秘に迫る』431–457. ひつじ書房／■ Croft, William and D. Alan Cruse. 2004. *Cognitive Linguistics.* Cambridge: Cambridge University Press.／■ Goldberg, Adel E. 1995. *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure.* Chicago: The University of Chicago Press. （河上誓作・早瀬尚子・谷口一美・堀田優子（訳）(2001)『構文文法論—英語構文への認知的アプローチ』研究社）／■ Lambrecht, Knud. 2001. Dislocation. In Haspelmath, Martin, Ekkehard König, Wulf Oesterreicher, and Wolfgang Raible (Eds.) *Language typology and language universals: An international handbook*, Vol. 2, 1050–1078. Berlin/New York: Walter de Gruyter.／■ Rodman, Robert. 1974. On Left Dislocation. *Papers in Linguistics*, 7: 437-466.